

B.LEAGUE 2022-23シーズンが開幕 デートやひとり観戦でも楽しめる臨場感たっぷりの アリーナ観戦の見どころを公開！

日本代表選手も多数出場！年間優勝をかけた戦いや、 B1・B2昇降格による熾烈な順位争いにも大注目

公益社団法人ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ（東京都文京区、チェアマン：島田慎二 以下「B.LEAGUE」）は、2022年9月29日に「B.LEAGUE 2022-23シーズン」の開幕を迎えました。リーグ開幕から7年目のシーズンに入り、バスケット観戦の人気も高まっています。また、新型コロナウイルス感染症の影響で制限されていた収容率も、今季は開幕から全ての会場において100%の収容率でお客様をお迎えできていることから、アリーナに足を運んで目の前で繰り広げられる試合を楽しむポイントや今季の見どころをお伝えします。

● 2022-23シーズンの注目ポイント

2016年に開幕した男子プロバスケットボールリーグ「B.LEAGUE」は現在、B1に24クラブ、B2に14クラブの全38クラブがあり、各クラブは地区に振り分けられレギュラーシーズンを戦います。今季からはB1において3シーズンぶりに、「東地区」「中地区」「西地区」の3地区制が復活し、2023年5月初旬まで各クラブ、ホーム/アウェー合計60試合を通じて、チャンピオンシップを目指しながらのぎを削ります。



〈9/20『B.LEAGUE 2022-23 SEASON TIPOFF カンファレンス』
B1全24クラブより代表選手が出席し、シーズンの意気込みを語った〉

また、B1・B2のリーグ間の昇格も行われており、昨シーズン終了後に、「仙台89ERS」と「ファイティングイーグルス名古屋」の2クラブがB1に昇格しました。「仙台89ERS」は、B.LEAGUEがスタートした2016-17シーズン以来6シーズンぶりにB1へカムバック。「ファイティングイーグルス名古屋」は、初のB1昇格となり、強固なディフェンスから速攻を狙うプレースタイルで早くも開幕5連勝の躍進を見せ、今後の活躍が大いに期待されます。昇格したクラブ以外にも選手の移籍により各クラブのパワーバランスが変化し、まさに群雄割拠のリーグ戦となっています。その中でも、昨シーズンの年間準優勝クラブである「琉球ゴールデンキングス」が順調な滑り出しを見せており、悲願の年間優勝を掴み取るか注目が集まります。さらに、今シーズンからはB2からB1への昇格に加えて、シーズン終了後にB1からB2への自動降格（2クラブ）も発生するため、これまで以上に白熱した順位争いが繰り広げられることとなります。

また、2023年にフィリピン、インドネシア、日本（沖縄）で開催されるFIBA バスケットボールワールドカップ2023に向けて、代表経験の豊富な富樫勇樹選手（千葉ジェッツ）や比江島慎選手（宇都宮ブレックス）などに加えて、西田優大選手（シーホース三河）や河村勇輝選手（横浜ビー・コルセアーズ）などの若手選手も含め、選手個人の活躍からも目が離せないシーズンとなります。

● B.LEAGUE アリーナ観戦の見どころ

B.LEAGUEのゲームは毎週水曜日と土曜日、日曜日を中心にしながら開催され、アリーナに足を運んで応援しやすいスポーツです。また、屋内型スポーツのため、雨に濡れることなく暑さ寒さも気にせず観戦することも嬉しいポイントです。

各アリーナでは様々な形式の座席を用意しており、カップルでのデートはもちろん、ファミリーでのお出かけや友人とのレジャー、おひとりでの観戦も満喫いただけます。さらにアリーナでは、見どころの解説や試合中のルール説明がされることが多いため、ルールを知らずとも楽しむことができます。中でも、「名古屋ダイヤモンドドルフィンズ」では試合前に、選手自らが試合の見どころをレクチャーしてくれるという、ホスピタリティの高いサービスも実施しています。



千葉ジェッツ #2 富樫勇樹選手

〈選手を身近に感じる臨場感〉

アリーナ観戦の最大の醍醐味は、なんとと言ってもプレーする選手とファンとの距離が近く、臨場感を味わいながら応援したり、試合観戦を楽しめることです。最前列のシートではコートからの距離が2メートル程しかない会場もあり、他のプロスポーツと比較しても長身の選手たちが、コートを所狭しと駆け巡りスーパープレーを連発する様子は圧巻です。さらに、ゲーム展開が速く得点も多く入るため、そのスピード感が臨場感に拍車をかけてゲームへの集中力が途切れることなく観戦できます。

〈充実したエンターテイメント・ファンサービス〉



オープニングのチアリーダーパフォーマンス

地元の名産などを活かしたアリーナグルメも試合観戦に欠かせません。「シーホース三河」では対戦相手によってメニューが変わる『対戦汁』や、「名古屋ダイヤモンドドルフィンズ」の各選手プロデュースの選手マルシェなど、各クラブの特徴があるので、試合前の空き時間に空腹を満たして、各アリーナのお気に入りメニューを見つけてください。「川崎ブレブサンダース」では、地元醸造所との共同開発により誕生したオリジナルクラフトビール『THE CRAFT THUNDERS BEER』を味わえます。

現在B.LEAGUE全体で、アリーナの改修や建設を進めており、SNS映えするフォトスポットを設置するアリーナも生まれています。「国立代々木競技場第一体育館」をホームとする「アルバルク東京」では、選手のサインと実際に選手が使用したボールを収めたモニュメントが試合開催時に設置されています。

多くは午後から夜にかけて試合が開催されますが、B.LEAGUE観戦では試合のスタート前から数々のアリーナ体験に触れることができます。

ゲーム前には、ホームクラブのチアリーダーによるパフォーマンスや選手紹介からオープニングが始まります。炎や照明を使った光の演出はアリーナスポーツならではの、見応えがあります。ハーフタイムやタイムアウト中なども飽きさせることなく、アーティストのショーなど、様々な演出やイベントを行っています。試合そのものだけでなく、トータルで一つのショーのようになっており、様々なファンサービスを楽しむことができます。



〈シーホース三河の対戦汁〉
仙台89ERSとの試合で販売された
仙台特産味噌を使用した「仙台味噌ラーメン」



(左)モニュメントにサインする
A東京 #11 セバスチャン・サイズ選手

(右)アルバルク東京の頭文字「A」を
モチーフに

〈コロナ対策の緩和〉

新型コロナウイルス感染症の影響で、昨シーズンは公式試合のうち200試合が中止となりました。今シーズンは、より多くのファンの皆様に最後までリーグ戦をお楽しみいただけるよう、選手エントリー要件や試合成立要件を緩和し、公式試合の安定開催を目指していきます。

観戦においてはこれまで通り、大声での応援や指笛、ジェット風船などの応援、来場者とのハイタッチや肩組みなどのフィジカルコンタクトは禁止事項とする一方で、コロナ禍前のように観客席の収容率は100%とすることができ、より多くのお客様にご来場いただけます。また、一部ファンサービスにおいても規制が緩和されコロナ禍前の楽しみ方が戻りつつあることもあり、アリーナ観戦においての楽しみが増えています。


● B1 全24クラブ紹介

地区	クラブ名	クラブ概要	アリーナ特徴	注目選手 (氏名/背番号/ポジション/ プレースタイル・特徴など)
東地区	レバンガ北海道  https://www.levanga.com/	日本バスケットボール界のレジェンドである折茂武彦が当時選手兼代表として2011年に創設。クラブ消滅の危機を乗り越えて北海道に残したクラブ。昨季得点王ジョン・ロング、フィリピン代表ドワイト・ラモスら個性豊かな仲間を“闘将”ことキャプテン橋本竜馬が牽引。クラブ史上初のチャンピオンシップ進出に向け変革のシーズンに臨む。	札幌の中心部からのアクセスもよく、悪天候でも影響を受けずに来場できる利便性の高い立地。来場者やアウェーチームより、綺麗なアリーナだと褒められることが多く、毎節新作が登場するグッズや種類豊富なグルメも自慢のアリーナ。	ドワイト・ラモス(193cm)／#2 ・シューティングガード ・キャッチコピーは『うまい、強い、カッコいい。すべてを兼ね備えたCOOL GUY』。デッドリフト180kgを挙げるパワーも要注目。フィリピン代表にも選出され、攻守に中心的役割を果たす。
	仙台89ERS  https://www.89ers.jp/	今季6シーズンぶりにB1復帰。どんな状況でも泥臭く粘り強く、ハードワークし続け、全員で闘うチームを目指す。	音と映像、光の演出で、バスケットの魅力を最大限に引き出す日本屈指のアリーナ。	渡辺 翔太(168cm)／#15 ・ポイントガード ・コールネームはシュータ。乃木坂46オタクのハンドラーで、「乃木オタハンドラー」という別名も。
	秋田ノーザンハピネッツ  https://northern-happinets.com/	昨季3Pシュート成功率リーグ1位のオフェンスと、日本一激しいディフェンスを目標として掲げる北国の雄。日本人選手とアジア特別枠のワン選手含む計10名は昨季から全員がチームに残る。クラブとして初出場した昨季のチャンピオンシップでの悔しさをバネに、今季はさらなる高みを目指す。	要塞のような雰囲気のアリーナでは、老若男女問わずチームカラーのピンクで染まり、自チームには熱く温かい応援、相手チームには強烈な圧がかかる。試合前には必ず秋田県民歌を斉唱。(現在は感染症対策の為、歌唱は無し)	田口成浩(184cm)／#5 ・シューティングガード ・チームで唯一の秋田県出身。高確率の3Pシュートでチームを牽引し、「おいさー！」を合言葉にチームや会場を盛り上げるお祭り男。
	茨城ロボッツ  https://www.ibarakirobots.win/	B.LEAGUEで最もテンポの速いバスケットを目指す。オフェンシブなスタイルのためバスケットを見たことがない人でも迫力のある試合を楽しめる！「GEAR UP 4000」をスローガンに掲げ、チームレベルアップを加速する。	近未来的な会場装飾と大きすぎないキャパシティでより近くで試合を満喫できるのが魅力。キッズスペースを開設し小さなお子様連れのご家族でも楽しめる。(※土日ゲームのみ)	平尾充庸(178cm)／#25 ・ポイントガード ・スコアリング能力に長けるポイントガードで、チーム史上最長の6シーズン目を迎えるキャプテン。勝負強さに定評があり、ロボッツの窮地を幾度となく救う。

	<p>宇都宮ブレックス</p>  <p>https://www.utsunomiyabrex.com/</p>	<p>B.LEAGUEの初代王者、そして2021-22シーズンの年間チャンピオン。日本人初のNBAプレーヤー 田臥選手やベストディフェンダーを2度受賞した遠藤選手を擁し、今季は2連覇を狙う。</p>	<p>アリーナに足を運べば、B.LEAGUE屈指の一体感と盛り上がり体験できる。センターハングビジョンや360度のリボンビジョンなどを駆使した演出も見もの。</p>	<p>比江島慎(191cm)／#6 ・シューティングガード ・『ヒエジマステップ』と呼ばれる独特なステップからリングにアタックし、得点、アシストを量産。日本代表でも中心選手として活躍。</p>
	<p>群馬 クレインサンダース</p>  <p>https://g-crane-thunders.jp/</p>	<p>力をもった個性的な選手が多く、それをまとめあげる今シーズンから就任した水野ヘッドコーチの手腕に期待。</p>	<p>土日の試合を中心に、地元飲食店のキッチンカーなど約30店舗が並ぶ「OTAMARシェ」を開催。来春には新アリーナが完成予定。</p>	<p>五十嵐圭(180cm)／#7 ・ポイントガード ・今シーズン42歳となったB.LEAGUE最年長プレーヤー。スピードとシュート力で相手を翻弄。</p>
	<p>千葉ジェッツ</p>  <p>https://chibajets.jp/</p>	<p>B.LEAGUEでの累積入場者数1位を誇る人気クラブ。アグレッシブなディフェンスから走るバスケットでファンに楽しいと思ってもらえるバスケットを目指す。</p>	<p>都心からも東京メトロ東西線で直通電車がありアクセスが便利。場外のキッチンカーでも温かくおいしいグルメを楽しめる。</p>	<p>富樫勇樹(167cm)／#2 ・ポイントガード ・『変幻自在のスピードスター』、『小さな巨人』と呼ばれる、チームの絶対的司令塔。電光石火のスピードと抜群の得点力でチームをけん引する。</p>
	<p>アルバルク東京</p>  <p>https://www.alvark-tokyo.jp/</p>	<p>2017-18シーズン、2018-19シーズンの2連覇を達成し、常にタイトルを狙うことを目標に戦うクラブ。選手の長所を活かし、相手を分析し攻略するスタイルで、ファンに興奮と楽しみを与えるスピーディーでアグレッシブなバスケットを展開。</p>	<p>今季から6年ぶりにB.LEAGUE開幕の地である代々木第一体育館にホームアリーナを戻す。多くの観客来場が想定されることから、試合前イベントの充実化やファミリー層向けの取組みを実施している。</p>	<p>田中大貴(193cm)／#24 ・シューティングガード ・アルバルク在籍10年目を迎えた、不動のエースでキャプテン。ニックネームは、ダイキ、D。</p>
<p>中 地 区</p>	<p>サンロッカーズ 渋谷</p>  <p>https://www.sunrockers.jp/</p>	<p>タイムシェアを徹底した全員バスケットで学生さながらのフルコートディフェンスが持ち味。</p>	<p>表参道から徒歩5分。大都会 渋谷にある非日常空間のアリーナで、選手が近く臨場感を味わえるのが特徴。</p>	<p>ベンドラメ礼生(183cm)／#9 ・ポイントガード ・サンロッカーズ一筋で日本代表経験もある、B.LEAGUE屈指のスコアリングガード。愛称はレオ。</p>
	<p>川崎 ブレイブサンダース</p>  <p>https://kawasaki-bravethunders.com/</p>	<p>1950年創部の古豪クラブで、ヘッドコーチ含め、生え抜き選手が多く、チーム基盤が安定している。昨季はアシスト数、平均得点共リーグ1位で、チームで得点ができてディフェンスにも強みがある。</p>	<p>川崎市の体育館を装飾して試合以外のエンターテイメントも楽しめる非日常空間を創出。観客がより見やすくなるよう、大型センターハングビジョンやリボンビジョンを増設している。</p>	<p>藤井祐真(178cm)／#0 ・ポイントガード/シューティングガード ・2018-19シーズンからリーグ個人賞3冠を3年連続で獲得、2022年の天皇杯ではMVPを受賞、また2021-22シーズンのレギュラーシーズン最優秀選手賞(MVP)を初めて受賞するなど個人タイトルを多数獲得。</p>
	<p>横浜 ビー・コルセアーズ</p>  <p>https://b-corsairs.com/</p>	<p>チャンピオンシップ出場を目標に、若手選手を中心に粘り強く、躍動感あるバスケットを展開。クラブ名の通り「海賊」をコンセプトにした演出やクリエイティブが特徴。</p>	<p>夏はプール、冬はスポーツフロアという季節によって使用用途が変わる珍しいアリーナ。会場内には飛び込み台があり、通路よりアリーナを一望できる。</p>	<p>河村勇輝(172cm)／#5 ・ポイントガード ・今年3月末に大学を中退し、今季よりプロデビュー。類まれなパスセンスとスピードが持ち味。</p>

	<p>新潟アルビレックス BB</p>  <p>https://www.albirex.com/</p>	<p>昨シーズンから選手の半数以上が入替わった、新生新潟アルビレックスBB。平均年齢が若く、ハードなディフェンスから速いオフェンスで得点を量産していく。</p>	<p>日本を代表する建築家・隈研吾氏が設計した複合型施設『アオーレ長岡』の一部としてアリーナが配置。JR長岡駅から直結で、雨や雪にぬれずに直接アクセスできる好立地。</p>	<p>澁田怜音(175cm)／#3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポイントガード ・今シーズンからクラブに加わった新潟の新プリンス。粘り強いディフェンスからのスピード、勢いあるドライブシュートが魅力。
	<p>富山グラウジーズ</p>  <p>https://grouses.jp/</p>	<p>#34スミス、#5ジョンソンの2人がインサイドを制圧。若手のアグレッシブなプレーと経験が生かされたベテランのプレーが融合したチームワークに注目。</p>	<p>富山駅北口から徒歩5分とアクセス良好。今シーズンからグラキッズスペースやシュートチャレンジブースなどを設置し、お子さんも楽しめる優しいアリーナに。</p>	<p>ジョシュア・スミス(210cm)／#34</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター ・2メートルを超える身長でチームを支える大型センター。ダブルチームをものともせず、インサイドで得点を量産する大黒柱。
	<p>信州ブレイブ ウォリアーズ</p>  <p>https://www.b-warriors.net/</p>	<p>平均年齢が若く、鉄壁のディフェンスが持ち味。2022年10月現在、B.LEAGUEトップの平均最少失点を誇る。</p>	<p>長野オリンピックでも使用された由緒あるアリーナで、どの席からもコートが見やすい。</p>	<p>前田怜緒(191cm)／#15</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポイントガード ・陽気なオールラウンダーで、レオのニックネームで親しまれている。
	<p>三遠 ネオフェニックス</p>  <p>https://www.neophoenix.jp/</p>	<p>金丸晃輔選手や中京大学に在学中の高橋快成選手（※特別指定）など10名の新選手が加入。さらに、リーグ優勝1回・天皇杯3連覇など千葉ジェッツを強豪に導いた、闘将 大野 篤史ヘッドコーチが指揮を執る。</p>	<p>B.LEAGUE所属クラブで唯一ホームタウンが2つの県を跨ぐクラブのため、ホームアリーナが「豊橋市総合体育館」と「浜松アリーナ」の2つある。ホームタウン三遠地域の食材を使ったグルメも販売。</p>	<p>金丸晃輔(192cm)／#14</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スモールフォワード ・「常に結果を出し続けるスーパースコアラ」。最高峰のシューター。特に3ポイントシュートには定評があり、わかっても止められないシュート力は相手の脅威になっている。
	<p>シーホース三河</p>  <p>https://go-seahorses.jp/</p>	<p>徳川家康の生地、岡崎城を別名「龍城」と呼ぶことになみ、龍に似た「シーホース(タツノオトシゴ)」と命名。龍のように強く勇ましい成長への願いが込められている。B.LEAGUEの前身である国内トップリーグでは優勝6回、準優勝4回、天皇杯は9回栄冠に輝き、これまでに多くの日本代表選手も輩出している。</p>	<p>おもてなしナンバー1の興行運営を目指し、豊富な席種や選手プロデュースのこだわりあるアリーナグルメなどを提供。ハーフタイムには公式風マスコット「タツノ」が思考を凝らしたショーで会場を盛り上げる。</p>	<p>西田優大(190cm)／#19</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シューティングガード ・強豪校を歩み、大学在学中からプロのステージを経験。昨シーズン三河に加入し、全53試合に先発出場。最優秀新人賞に輝く。直近では日本代表選手としても活躍し、度々1試合あたりのチーム最多点を記録するなど、存在感を発揮。
<p>西 地 区</p>	<p>ファイティング イーグルス名古屋</p>  <p>https://www.fightingeagles.jp/</p>	<p>激しいディフェンスと速い攻撃を信条とする「守って走るチーム」。他クラブと比較すると全体的にサイズが小さいながらもシュートが上手く、スピードのある選手が多く、激しいディフェンスから早い展開に持ち込むのがスタイル。</p>	<p>アリーナ自体は広くないものの、それゆえに、選手との一体感や、臨場感を感じられる。</p>	<p>エヴァンス ルーク(203cm)／#3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パワーフォワード ・アメリカ出身で2014年来日し、2021年に日本国籍を取得。日本代表選手としても活躍。献身的なディフェンスと内・外両方ができるオフェンス力が特徴。




<p>名古屋ダイヤモンドドルフィンズ</p>  <p>https://nagoya-dolphins.jp/</p>	<p>昨シーズンからほとんど変わらないメンバーで、チームワーク、団結力はリーグ随一。高い3Pシュート成功率と、連携のとれたディフェンス力が持ち味。</p>	<p>アリーナの2階通路には、フォトスポットを設けており、試合中だけではなく、アリーナ全体を満喫できるブースが盛りだくさん。</p>	<p>齋藤拓実(172cm)／#2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポイントガード ・今季はキャプテンも務める「チームの司令塔」。得点だけでなくアシストにも優れ、1試合のアシスト18というリーグ記録タイをもつ。
<p>滋賀レイクス</p>  <p>https://www.lakestars.net/</p>	<p>アグレッシブなディフェンスからのスピーディーな速攻が最大の強みでB.LEAGUE屈指の展開の早いチーム。昨季のPACE(攻撃回数)はリーグトップ。観戦が初めてでもバスケットボールのスピード感を体感できる。気持ちを全面に出してプレーする選手たちにも注目。</p>	<p>今年12月より、新ホームアリーナ「滋賀ダイハツアリーナ」へ移転予定。観戦者に優しい天井吊り下げ式4面ビジョンの導入などエンターテインメント面でも大幅にパワーアップを図る。</p>	<p>テーブス海(188cm)／#7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポイントガード ・高校2年より渡米し、アメリカの高校、大学でプレー。在学途中で帰国し2020年からプロ入り。日本代表経験もあり、昨季の所属クラブでは日本一を経験している若き司令塔。
<p>京都ハンナリーズ</p>  <p>https://hannaryz.jp/</p>	<p>B1所属クラブで最も選手の平均年齢が若く、のびしろたっぷりのチーム。</p>	<p>京都市内中心部に位置しアクセス良好。アリーナ内では、学生の街・京都ならではの学生インターンが様々な企画を考案し実践。</p>	<p>久保田義章(175cm)／#11</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポイントガード ・観客をワクワクさせる若きゲームメイカー。「よし」の愛称で多くの女性ファンを魅了する。
<p>大阪エヴェッサ</p>  <p>https://www.evessa.com/</p>	<p>爆発力のあるチームで、今シーズンは新たなるヘッドコーチを迎えて、チャンピオンシップ進出を目指す。</p>	<p>B.LEAGUE指折りの派手で工夫を凝らしたパフォーマンスや演出が魅力。応援スタイルは「ハリセン」。アリーナ全体から湧き上がる音で会場が一体になり盛り上げる。</p>	<p>ディージェイ・ニュービル(193cm)／#25</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポイントガード/シューティングガード ・圧倒的な得点力で『神』と呼ばれる男。
<p>島根スサノオマジック</p>  <p>https://www.susano-m.com/</p>	<p>島根県唯一のプロスポーツチームで、県内でのチームの認知度は驚異の98.1%。街へ出かければさまざまなシーンで応援の声をいただき、チームと地域の距離感が近いことが特徴。山陰から西日本のクラブとして初となるB.LEAGUE制覇を目指す。</p>	<p>大型四面ビジョンやレーザー、炎を使用した演出や、様々なコンテンツを活用した非日常感満載のエンターテインメント空間を創出。地元の名産が詰まった、特徴的なアリーナグルメも必見。</p>	<p>安藤誓哉(181cm)／#3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポイントガード ・昨シーズン、各スタッツでキャリアハイを更新しレギュラーシーズンベストファイブにも選出。豊富な経験から生まれる勝者のメンタリティーでキャプテンシーを発揮し、昨シーズンはクラブを初のチャンピオンシップ出場へ導いた。勝負所での試合を決めるビッグショットは必見。
<p>広島ドラゴンフライズ</p>  <p>https://hiroshimadragonflies.com/</p>	<p>コートを広く使い、走るバスケットを目指し、観客も見ていて楽しいバスケットを展開する。</p>	<p>駅から雨に濡れずに来場が可能。子ども来場者数ナンバー1を目指している。途中にある大型ショッピングセンター「アルパーク」でお買い物も可能。</p>	<p>寺嶋良(175cm)／#0</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポイントガード ・クールな表情からは想像できない鋭いドライブで相手を翻弄する。昨シーズンはキャリアハイの活躍で、日本代表選手としても活動。今シーズンはゲームキャプテンとしての活躍に期待がかかる。

	<p>琉球 ゴールデンキングス</p>  <p>https://goldenkings.jp/</p>	<p>沖縄県で初となるプロスポーツチーム。昨シーズン初めて西地区から日本生命 B.LEAGUE ファイナル 2021-22へ進出した強豪。今季はポジションレスなチームを目指す。</p>	<p>ホームアリーナである沖縄アリーナは、バスケットボール観戦に最適化された屋内施設。天井からつり下がる大型ビジョンや、最後列からでも見やすい設計、30室のスイートルームなどを備える、まさに「夢のアリーナ」。来年開催される、FIBAバスケットボールワールドカップ2023沖縄グループフェーズの会場となる。</p>	<p>岸本隆一(176cm)／#14 ・ポイントガード/シューティングガード ・沖縄県出身で、大学卒業以来、琉球ゴールデンキングスに所属する地元プレイヤー。</p>
--	--	--	--	--

● B2 全14クラブ紹介

地区	クラブ名	クラブ概要	アリーナ特徴	注目選手 (氏名/背番号/ポジション/ プレースタイル・特徴など)
東地区	<p>青森ワッツ</p>  <p>https://aomori-wats.jp/</p>	<p>新加入選手10名と、昨シーズンから大改革し、ベテランと若手のバランスが取れた素晴らしいチーム。アップテンポでスピーディーなバスケット、粘り強いディフェンスからのトランジションの速さが持ち味。</p>	<p>冷暖房完備で、雪国である青森県でも寒さを気にすることなく観戦できる。また、「地域密着」を目指し、県内各地で試合を行っている。</p>	<p>マックス・ヒサタケ(203cm)／#22 ・パワーフォワード ・身体能力を活かしたダンクやリバウンド能力の高さが特徴で、粗削りな部分もあるが、伸びしろ抜群なところが魅力。</p>
	<p>山形ワイヴァンズ</p>  <p>https://www.wyverns.jp/</p>	<p>ディフェンスからオフェンスへの展開が速く、チーム全体で勝利を目指す。</p>	<p>駐車場スペースが約6000台分あり、車社会の山形でも駐車場確保を気にせずに来場が可能。</p>	<p>眞庭城聖(193cm)／#27 ・スモールフォワード ・長年のプロキャリアで培ったシュート力が持ち味。最年長・キャプテンとしてチームを牽引する。</p>
	<p>福島 ファイヤーボンズ</p>  <p>https://firebonds.jp/</p>	<p>東日本大震災をきっかけに設立されたクラブ。福島をスポーツの力で元気に、夢を、感動を届け、福島のシンボルになることを掲げている。昨季、プレーオフで悔しい思いをした選手たちに加え、B1経験が豊富な強力インサイド陣が加入。さらにクラブ初となるアジア特別枠の選手を獲得し、チーム力を強化。</p>	<p>アリーナ全体をチームカラーのパープルー色に装飾。インターバルなどでのファン参加型イベントも充実し、リーグ屈指のアリーナグルメも楽しめる。また、オムツ替えスペースやDJ体験ブースなどのキッズスペースを設け、小さなお子様連れのお客様でも安心して観戦できる。</p>	<p>ジョシュ・ハレルソン(208cm)／#55 ・センター／パワーフォワード ・元NBA選手で過去にはB1クラブの中心選手としても活躍。センターとして、ゴール下での守りだけではなく、内外共に強力なプレイヤー。</p>
	<p>越谷アルファーズ</p>  <p>https://www.koshigaya-alphas.com/</p>	<p>日本バスケットボール界のレジェンド 桜木ジェイアールがスーパーバイジングコーチを務める。また、昨季宇都宮ブレックスをB.LEAGUE年間チャンピオンに導き、最優秀ヘッドコーチ賞を受賞した安齋竜三をアドバイザーに迎え、チームを徹底強化する。</p>	<p>日本一の一体感をキーワードにアリーナを訪れる誰もが一体感を感じられる空間を目指す。今年、チアリーダーのHazukiと専属プロ契約を締結し、チアがチームや地域にもたらせる新たな可能性、キャリアの考え方、魅力を発信していく挑戦も行う。</p>	<p>菊地祥平(191cm)／#13 ・スモールフォワード ・今もなお日本バスケットボール界で輝き続けるゴールデンエイジの一角であり、強靱なフィジカルを武器とするリーグ屈指の守備職人。B1での優勝・連覇経験も持ち、圧倒的存在感で徹底的なディフェンス、エナジー、漢気でチームに変化をもたらしている。</p>

	<p>アルティリー千葉</p>  <p>https://altiri.jp/</p>	<p>2020年に創設され、「5年でB1優勝」へ最速昇格・優勝を目指す。幸先よくリーグ参戦初年度の昨季、B2昇格を果たした。今シーズンのホーム開幕戦動員数はB2トップを記録。</p>	<p>アリーナ内の装飾や演出など、全てにこだわり抜いた世界観を表現し、非日常を体験できる。</p>	<p>杉本慶(182cm)／#11</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シューティングガード ・出どころのわからない変幻自在のパスで相手選手が気付かない間に味方の得点を演出している。
	<p>アースフレンズ東京Z</p>  <p>https://eftokyo-z.jp/</p>	<p>若手とベテランが融合した新生「アースフレンズ東京Z」として2022-23シーズンに臨む。チアリーダーの「Zgirls」と「TeamUME」のパフォーマンスで試合を盛り上げる。</p>	<p>2022-23シーズンは、初観戦の方でも楽しめるよう、様々な種類の「アスプレまつり」を開催。その他にも、対戦相手軸の物産展を開催。</p>	<p>城宝匡史(183cm)／#31</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シューティングガード ・40歳を迎えたプロキャリア18年目のベテランシューター。勝負所ではより一層勝負強さが増すスコアラー。
	<p>西宮ストークス</p>  <p>https://www.storks.jp/</p>	<p>地元出身や関西にゆかりのある選手が多く、リガ良いことが特徴。全員が攻めて守る「全員バスケット」を掲げ、特に日本人選手の得点能力が高い。</p>	<p>西宮市民の様々な思い出が詰まったアットホームな体育館がホームアリーナ。コンパクトな会場でコートまでの距離も近く、迫力満点で観戦できる。</p>	<p>道原紀晃(178cm)／#13</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポイントガード/シューティングガード ・プロキャリアをストークスでスタートさせ、今季11シーズン目を迎える不動のエース。今季はキャプテンも努める。
西地区	<p>バンビシャス奈良</p>  <p>https://bambitious.jp/</p>	<p>“走るバスケット”を全員が実践。プレーの見どころである豪快なダンクシュートの機会も増加中。</p>	<p>11月中旬には、大型ビジョンを新規で追加予定。プレーが見やすくなること、バスケット観戦のさらなる臨場感が生まれることが期待される。</p>	<p>藤高宗一郎(190cm)／#3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フォワード ・地元奈良県出身で、日本人としては貴重な試合中に派手なダンクシュートをみせるプレーヤー。FIBA 3x3 ワールドカップ2022日本代表にも選出される。
	<p>香川ファイブアローズ</p>  <p>https://www.fivearrows.jp/</p>	<p>激しいディフェンスからのファストブレイクを得意とし、B2屈指の3Pシュート力を持つ。若手選手が多く、オフコートでも仲が良く、外国籍選手が全員自国の代表選手。</p>	<p>高松市内に位置し、最寄駅から徒歩2分の好立地。開設当時、四国最大級の体育館として竣工された高松市総合体育館がホームアリーナ。</p>	<p>アングス・ブランド(208 cm)／#12</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファイブアローズのインサイドの要であり、今シーズンからキャプテンも務める。強靱なフィジカルでゴール下を守り、リバウンドをもぎ取るプレーで勝利に貢献する。
	<p>愛媛オレンジバイキングス</p>  <p>https://orangevikings.jp/</p>	<p>昨季の課題であったディフェンスを強化し平均失点80点以下を目標に設定。オフENS面も外角から得点を狙える選手を補強し内外バランスよく攻撃できるチーム作りを目指す。</p>	<p>街中にあり利便性の良い立地となっている。キッズスペースも設置しており、小さなお子様連れのお客様もご来場いただくことができる環境を整える。</p>	<p>古野拓巳(178cm)／#3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポイントガード ・数々のゲームを経験してきた、ベテランならではのゲームコントロールに注目。
	<p>ライジングゼファー福岡</p>  <p>https://r-zephyr.com/</p>	<p>個ではなく、チームで戦うクラブ。選手、スタッフ全員が何事にも「チーム」のために全力を尽くし戦う集団。</p>	<p>黒を基調としたシックなアリーナで、試合当日は扉の色も黒に変え、隅々まで装飾することで非日常的な空間を創出。</p>	<p>マーベル・ハリス(193cm)／#23</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポイントガード ・久々のB.LEAGUEで無双状態のオフェンスマシーンとして活躍している。

<p>佐賀バルナーズ</p>  <p>https://ballooners.jp/</p>	<p>強固なディフェンスから相手の体制を崩し、流れるように勢いのあるオフェンスへと繋げる。ベテランと若手陣が勢いあるプレーを魅せ、勝利を確実に掴む。</p>	<p>九州最大級の多目的アリーナで様々な施設が融合するスポーツ・文化の一大拠点。バスケットボールのほかスポーツの国際大会にも対応可能。</p>	<p>レイナルド・ガルシア(187cm) / #2 ・ポイントガード ・B2トップレベルのオフェンス能力を持つ。</p>
<p>長崎ヴェルカ</p>  <p>https://www.velca.jp/</p>	<p>2021-22シーズンに立ち上げられたチームながら、ベテランが先頭にたって盛り上げている。また、従来のポジションに縛られず全員が積極的にシュートを狙う。</p>	<p>長崎県内最大のアリーナを擁し、プロジェクションマッピングを使用した試合前の演出やパフォーマンスにも力を入れる。</p>	<p>松本健児リオン(183cm) / #1 ・ポイントガード/シューティングガード ・「ミスターヴェルカ」で契約第一号選手。</p>
<p>熊本ヴォルターズ</p>  <p>https://www.volvers.jp/</p>	<p>13人中10人が新加入のまさに新生ヴォルターズでありながら、チーム力と仲の良さは過去一番。熱狂的なファン“voltersred”の応援を背にリーグ昇格を目指す。</p>	<p>歴史ある体育館でコートと観客席の距離が近く、迫力あるプレーが楽しめる。選手の名前が書かれた推しタオルでの応援が名物。</p>	<p>田渡凌(180cm) / #21 ・ポイントガード ・B1のクラブから覚悟を持って熊本へ移籍。リーグシップでチームを引っ張る。日本バスケットボール選手会の会長も務める。</p>

シーズン開幕から約1ヶ月が経過し、2022年10月7日（金）に国立代々木競技場 第一体育館で行われたアルバルク東京vs千葉ジェッツでは、クラブ主管試合の最多となる8,919名の入場者数を記録するなど、アリーナ観戦が賑わいを見せています。さらに、2023年1月には、ファン投票などで選ばれた選手が「B.BLACK」と「B.WHITE」に分かれて戦うオールスターゲームを3年ぶりに開催するなど、今後もB.LEAGUEの盛り上がりが期待されています。

B.LEAGUEでは、バスケットボール観戦の魅力を伝えるきっかけとなる言葉として、B.LEAGUEパーパス「ココロ、たぎる。」を掲げています。このパーパスのもと、一人でも多くのお客様にアリーナに足を運んで応援していただくこと、また、バスケットLIVEを通じて試合を視聴し応援していただくことができるよう、様々な取組みやファンサービスの拡大に努めてまいります。

メディアからのお問い合わせ先
B.LEAGUE PR事務局（株式会社ブラップジャパン内）担当：青木・柳澤・山口
メール：bleague-pr@prap.co.jp